

瓦でつながる、
家族のしあわせ。



 **緑窯業株式会社** 全工場 日本産業規格適合性認証

- 営業本部 〒656-0304 兵庫県南あわじ市松帆古津路878-3
西淡第一工場 TEL.0799-36-2291(代) FAX.0799-36-4990
- 本社工場 〒656-0153 兵庫県南あわじ市倭文庄田338-1
- 西淡第二工場 〒656-0305 兵庫県南あわじ市松帆北浜71-1
- 博多営業所 〒811-8132 福岡県古賀市川原1289-1
TEL.092-944-1272(代) FAX.092-944-1924
- 宮崎営業所 〒880-0211 宮崎県宮崎市佐土原町大字下田島宮本12219-49
TEL.0985-73-7785(代) FAX.0985-73-7786



<http://www.midori-yougyo.co.jp>

緑窯業の瓦「みちガエル」
緑窯業 検索

特約店

AWAJI KAWARA CATALOG

住むほど実感、「淡路瓦」の素晴らしさ。

家のスタイルは、そこで暮らす家族のライフスタイルによって、さまざまに変化します。
 けれど、家づくりの基本は変わりません。それは、誰もが笑顔で、心地よく過ごせる場所を築くこと。
 大切な家族をやさしく包みこみ、雨や風、真夏の強い日射しから守ってくれる、頼もしい家。
 そんな夢をかなえるために、屋根にもこだわり、たしかな屋根材を選んでほしい。
 緑窓業は、日本瓦の代名詞と言われる「淡路瓦」で、理想の“わが家づくり”を応援します。



Family Story

結婚して、
 親の代からの家を
 建て替えることに。
 いろいろ調べると、屋根は機能的にも
 経済的にも瓦がいいって。
 「今どき?」と思ったけれど、
 瓦もすごく進化していて、
 とってもおしゃれな
 外観になって大満足!



「淡路瓦」のわが家なら 一年中、ずっと安心・快適。

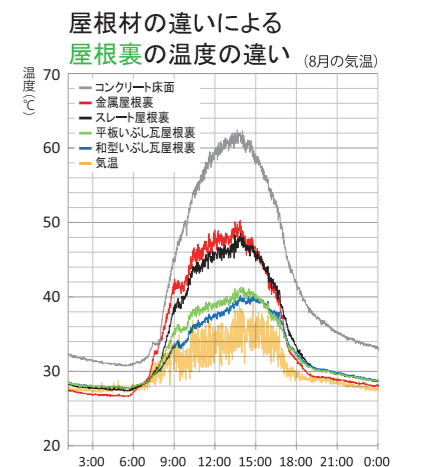
ただいだけで、ホッと気持ちが安らぐ家。
 その安堵感は、家族がいつでももしっかり守られているという
 信頼感から生まれるのではないのでしょうか。
 日本の風土に最も適した「淡路瓦」のわが家なら、
 四季折々の快適さを存分に実感することができます。



住みはじめて気づいたのが、
 雨の日の静かさと夏の快適さ。
 雨音が気にならず、
 部屋が暑くなり過ぎないのは驚き。
 瓦の家って、
 こんなに違うんだ!

快適

夏の直射日光にさらされる屋根は、驚くほど高温に。外気温
 が35℃であれば、屋根材の表面は60~70℃にもなります。粘
 土瓦は、金属や化粧スレートなど他の屋根材と比べ、素材自
 体、工法自体の断熱
 性が高いため小屋
 裏（天井から上）の
 温度上昇を抑え、小
 屋裏の温度は7~
 8℃も違います。逆に
 冬場は、日中に瓦に
 蓄えられた熱が日没
 後の温度低下を緩や
 かにしてくれます。

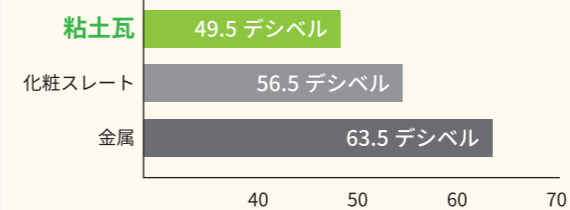


静か

一家だんらんのひとときも、雨の日は屋根を叩く雨音で会話
 やテレビの音声が邪魔されてしまい、少々困りものですね。淡
 路瓦は音を伝えにくい粘土を素材とした遮音性の高い瓦なの
 で、屋根から伝わる騒音を効果的に軽減。静かな空間で、
 ゆったりと寛いでいただけます。

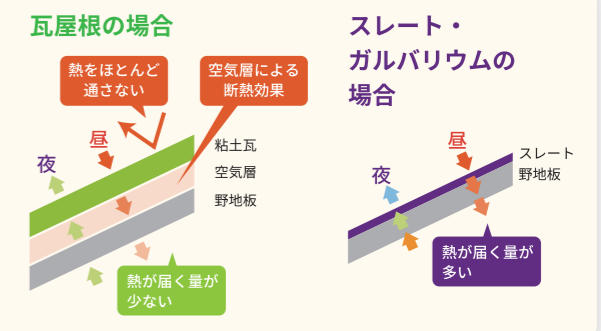
粘土瓦の優れた遮音性を実証

粘土瓦は音を伝えにくく、雨の日でも静かな快適空間を作り
 ます。激しい雨音でも、室内なら音が気になりません。



1分間の雨音測定実験の場合、騒音レベルは
粘土瓦：静かな住宅地
化粧スレート：劇場のざわめき
金属瓦：普通の会話

7~8℃も暑さを和らげる仕組み



ここがPOINT
 ◎瓦屋根は夏涼しく冬暖かい
 ◎夏場は小屋裏温度が7~8℃も違う



安心

自然災害で特に心配なのは、やっぱり地震。けれど、今どきの瓦の家はとてもしっかりと作られるって大工さんが太鼓判を押してくれたから安心！

近年、度重なる災害のレベルに合わせ、瓦の防災性能や工事の基準値はより厳しくなっています。瓦はそもそも台風にも強いのですが、緑窯業では、災害に強い瓦屋根を実現するために設定された瓦屋根の施工方法「ガイドライン工法」を推奨することで、従来の施工方法に比べて耐震性・耐風性を飛躍的に向上させています。

地震・台風にも強い「ガイドライン工法」

「ガイドライン工法」を採用した建物は、耐震実験において阪神・淡路大震災や発生が危惧される東海大地震クラスの揺れにも耐えることが証明されました。高品質な瓦と優れた施工方法。この二つが揃ってはじめて、安心・快適な家が誕生するのです。自然災害の多い日本において、地震や台風にも強い家を築けるのも瓦屋根の強みです。

大地震（震度6強～7）に耐えられる耐震性

- 震度 6 強～7 に耐えられる**
- 瓦屋根こそ耐震性が高い**
荷重量に余裕が出る
- 重さは旧工法の半分**
軽い屋根材に太陽光パネルを乗せた重さと同じ

瓦屋根の場合、建築基準法では、しっかりと土台、柱、耐力壁等が必要となります。だから、瓦を乗せることのできる丈夫な住宅は耐震性に優れているのです。

屋根からの類焼を防ぐ、高い耐火性

瓦は完全な不燃材であるため、万が一の火災でも割れたり、溶けたり、有毒ガスが発生したりすることがありません。特に緑窯業では淡路瓦メーカー中、最も高温である1,020℃の窯でじっくり焼き締めるため耐火性も高く、火災による屋根からの類焼を防ぐことができます。

※耐火建築物（建築基準法第2条第九号の二）で不燃物として規定。

ガイドライン工法で建てた家なら

大型台風 平均風速 **30～46m** までクリア
(走行中のトラックが横転する風速)

地震 震度 **7** をクリア
淡路瓦工業組合による実験データより

さらに 実物大の住宅を使用した実験で、阪神・淡路大地震と同じ1300ガルの揺れにも瓦は1枚もずり落ちませんでした

瓦の家は建物の構造もしっかりしています

① 柱が太く、壁が厚い
屋根の重みに耐えうる設計をしているので安心！

② 軒の出が大きい
雨から壁（窓）を守るので安心！
※雨漏りの多くは窓枠の劣化によるものが多い

ここがPOINT

- ◎瓦屋根の家は、丈夫な家
- ◎「丈夫な家」には“余力”がある



家族みんなが揃って、わが家で過ごすのが大好き。10年先、20年先、どんな暮らしをしてるんだろう？子供が大きくなっても、長く、安心して住める。こんな素敵な家に、ずっといてくれてもいいんだよ。

経済的

実は、「瓦はとってもお得」。その秘密は、優れた素材の耐久性や家を長持ちさせる通気性、そして、メンテナンスの容易さです。他の屋根材と比較すると、築10年後、20年後のメンテナンス費用はほとんど不要。未長く住むことができ、住むほどに愛着が深まる、これも瓦屋根の家の魅力です。

経済性に優れているから20年間で110万円の節約に

粘土瓦	約8,000円/㎡として	塗り替え不要	メンテナンス費用	合計
	80万円	0円	0円	80万円
化粧スレート ガルバリウム鋼板	約5,000円/㎡として	塗装および足場代	(約7,000円/㎡として)	合計
	50万円	70万円	70万円	190万円
	施工時	10年後	20年後	

※金額、年数はあくまでも目安です。

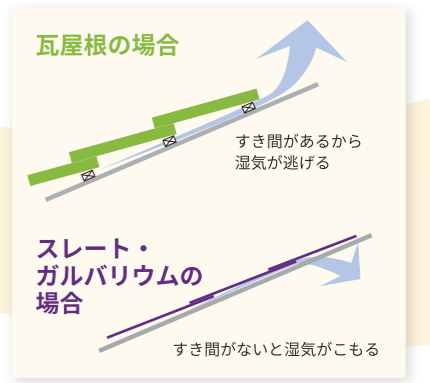
素材の耐久性

良質な粘土を焼き締めた瓦素材は、紫外線による劣化やサビによる腐食の心配はありません。極めて高い耐久性を持っているため、外装材に最も適した素材として長年活用されているのです。対して、他の屋根材は紫外線による劣化を避けられないため、定期的な塗装が必要となります。



家を長持ちさせる湿度調整機能

瓦葺き工法は、屋根と瓦との間に空間を設けることで、屋内にこもる湿気を逃がします。そのため、建物を傷める原因となる「結露」を防止。大切な家の耐久性を高め長持ちさせます。



メンテナンスの容易さ

粘土瓦は、約30cm四方のパーツを組み合わすことで屋根を生み出しています。万が一、アンテナ工事やソーラー工事といった屋根上の作業で瓦が割れてしまった場合も、1枚から差し替えが可能。他の屋根材を使用した場合は、一部の破損でも全体の修理が必要となることが多いため、修理費が高くなりがちです。



自然の力に 守られて暮らす。 だから、 緑窯業の「淡路瓦」。

淡路島には、良質な粘土が豊富にあります。

その貴重な粘土を使い、熟練の職人が独特の製法によって作り上げる「淡路瓦」。

自然から生まれ、自然に還る。人に、地球に、やさしい素材。

いぶし銀のような深い光沢を持つこの瓦は、

時を重ねるにつれ深みが増し、美しい色の変化を愉しんでいただけます。

また、淡路瓦は自然素材ならではの様々な力を蓄えています。

特に、緑窯業は淡路瓦メーカー中、最も高温で焼成し、最も耐久性の高い瓦を製造。

そうして作られた瓦は、抜きん出た耐寒性も兼ね備えています。

真の安らぎと快適さを求める、よりたくさんの方に

長く使っていただける住まいの建材として

私たち緑窯業は、自信と責任を持って「淡路瓦」をお届けしています。



INDEX

- 平板《いぶし瓦》 / 防災瓦
Nice The Flat07
- 平板《いぶし瓦》 / 防災瓦 / 緩勾配瓦
Nice The Noah09
- 平板《いぶし瓦》 / 防災工法瓦
Nice The Summit11
- 平板《窯変瓦》 / 防災工法瓦
窯変Nice The Summit13
- 和形《いぶし瓦》 / 防災瓦
ナイスミドリ15
- 和形《いぶし瓦》 / 防災瓦 / 縦棧工法瓦
ナイスだぜガッチリくん16
- 和形《いぶし瓦》 / 防災瓦 / 緩勾配瓦
ナイスミドリプラスワン・深切瓦渦潮・中深瓦千鳥17
- 和形《いぶし瓦》 / オプション
和瓦の細部の仕様19
- 和形《古色瓦》 / 防災瓦
古色IBUSHI21
- 本葺一体瓦《いぶし瓦》
飛鳥野瓦23
- Before After25
- ガイドライン工法27
- 標準屋根勾配と流れ長さ / 働き寸法28
- 瓦割付寸法29
- 修理修繕に便利なアイテム30
- 瓦の種類と使用箇所31
- 淡路いぶし瓦の種類33

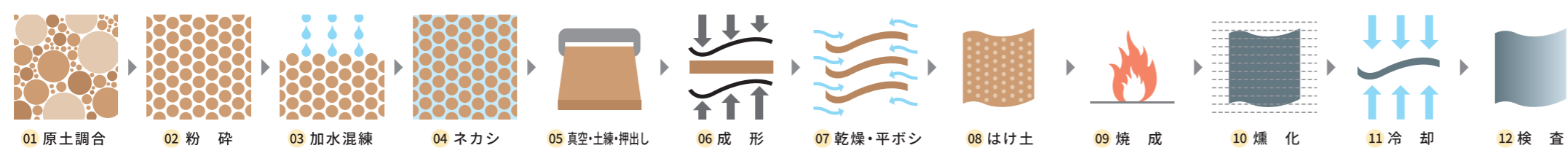
緑窯業のSDGsへの取り組み

“土”と“水”という自然素材のみを原料とする淡路瓦。土から生まれ、土に還る、人と地球にやさしいマテリアルです。また、災害に強く、他の屋根材よりも圧倒的に寿命が長いこと、資源の節約、CO2削減などの側面も持ち合わせています。私たち緑窯業は、淡路瓦ならではの特性を生かしてSDGsに取り組んでいます。



淡路瓦ができるまで

淡路島の良質な“土”と“水”だけを原料とし、職人技とコンピュータ制御の融合で 高品質な瓦を製造。
「いい家の証となる瓦」を生み出したい、そんな熱い思いを込めて繊細な作業を 進めていきます。



Nice The Flat

ナイスザフラット

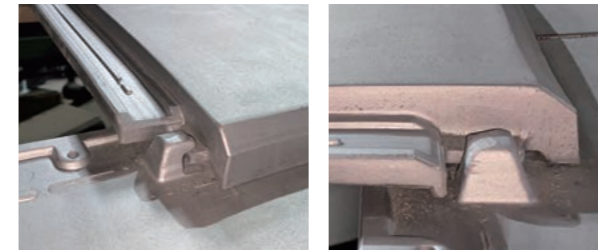


シンプルで気品漂う住まいをつくります。

伝統を大切にしながら、新しい感性を加えた「ナイスザフラット」。

葺き上がりのイメージは、直線的なラインが整然と並び、シンプルな美しさを奏でます。隅棟部を差し棟仕様にすれば、より格調高く表情豊かな仕上がりになります。

防災機能



瓦同士をかみ合わせる事で地震や台風に強い瓦を実現。さらにスライドさせる事が出来る防災フックはあらゆる屋根に対応出来ます。



棟部バリエーション



差し棟



紐無三角棟



片流れ棟



のし積

袖部バリエーション



一体袖



シンプル袖



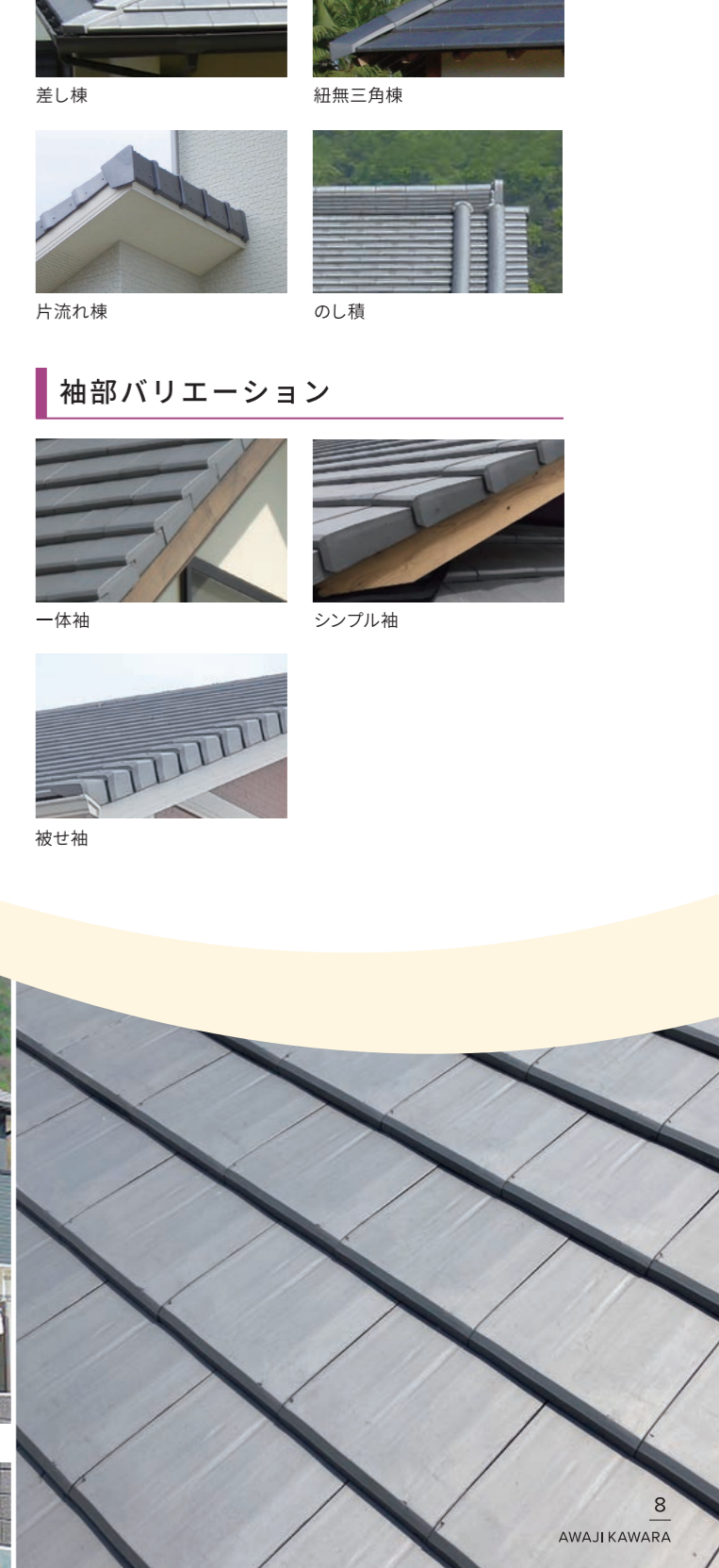
被せ袖

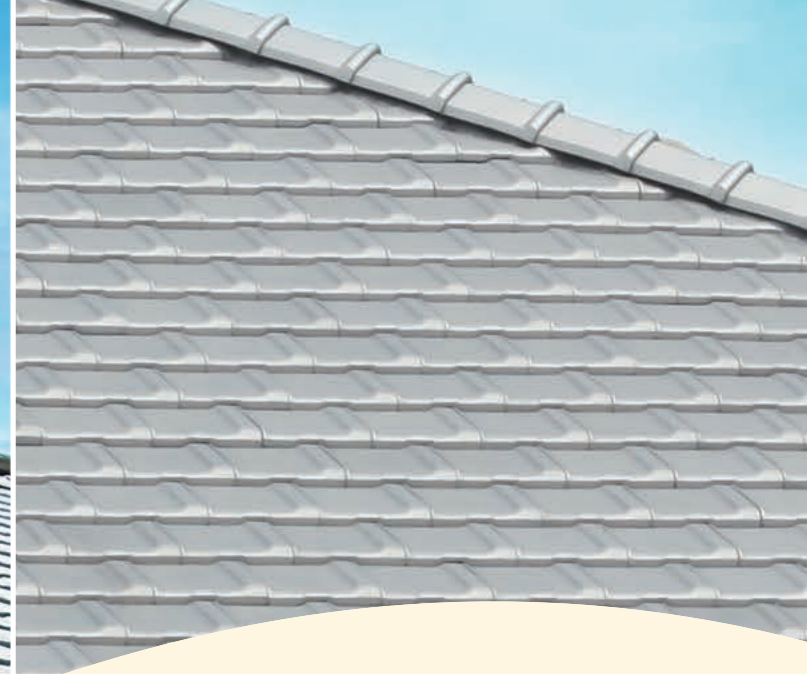


一体袖 (オプション)



シンプル袖 (オプション)





独自の防水設計で優れた防水性能を発揮

「ナイス ザ ノア」は独自の防水性能で水処理構造に優れ、進入する水をシャットアウトします。耐久性にも強さを発揮し、丈夫で長持ちします。また、しっとりとした色つやが住まいの格調を高めるだけでなく、いつまでも美しさを保ちます。

防災機能



瓦同士をかみ合わせる事で地震や台風に強い瓦を実現。さらに高い水返しや高い三角水切りにより進入しようとする水をシャットアウトします。

棟部バリエーション



紐無三角棟

のし積



片流れ棟

袖部バリエーション



被せ袖

Point

上下約1cmのスライドで容易に施工

防災部の凹凸部の登りが上下約1cmスライドができ、緩勾配でも瓦割りが容易に出来ます。



本いぶし



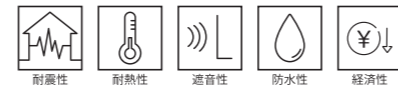
耐震性 耐熱性 遮音性 防水性 経済性

Nice The Noah

ナイス ザ ノア

Nice The Summit

ナイス ザ サミット



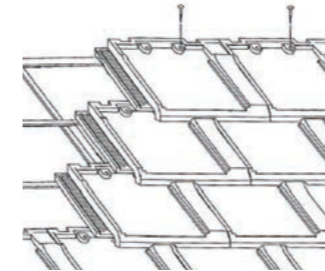
街並みにドラマを感じさせる洗練された気品

降り注ぐ陽射しに映える、格調高いデザイン。そして強さ。
日本の街並みをドラマチックに演出します。

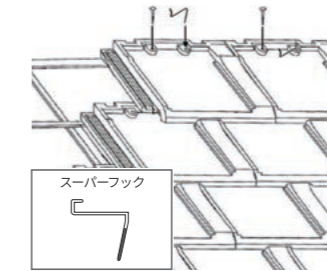
防災機能

(1)平部全数釘打ち

※基準風速により仕様が変わります



(2)スーパーフック工法



全ての瓦を1枚ずつ屋根に固定する事で地震や台風に強い瓦を実現。さらにスーパーフックを使用し瓦同士を固定する事でさらに強度を増す事が可能です。



棟部バリエーション



紐無三角棟



片流れ棟

袖部バリエーション



被せ袖

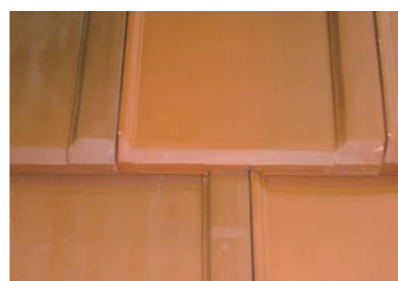




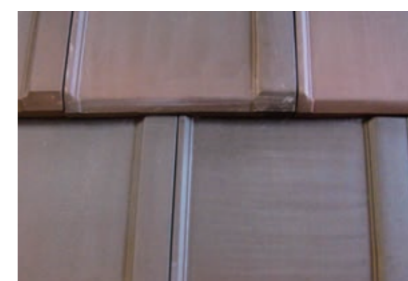
世界で1つだけの屋根瓦

窯内の雰囲気の色が決まる窯変瓦は、1枚1枚すべて色が違います。
さらにその独特の表情を組み合わせる事で、
和風、洋風を問わず個性的で洗練された屋根をつくります。

風合い(目安)



赤目



中間



黒目



※窯変瓦のため、色彩の仕上がりには多少違いがでます。



耐震性 耐熱性 遮音性 防水性 経済性

窯変 Nice The Summit

窯変 ナイス ザ サミット

棟部バリエーション



紐無三角棟

袖部バリエーション



被せ袖

屋根全体がひとつの瓦。 合体パワーが屋根をしっかりと守ります。

自然災害の影響を受けやすい日本家屋。その被害からしっかりと守ってくれるのが、独自に開発した《合体構造》によってズレや飛散、落下などを防ぐ、画期的な防災瓦「ナイスミドリ」です。“屋根全体をひとつの瓦に”という発想から、切り込み部分に付けられたツメにより、瓦と瓦をガッチリと合体。優れた施工性とデザインの美しさに加えて、地震や台風に強い、高い信頼性をプラスしました。



2つのツメのかみ合わせにより
地震や風雨による瓦の拡散を
防ぎます。



設計・監理：株式会社風偉社
施工：有限会社 ササハラ鉄骨

Nice Midori

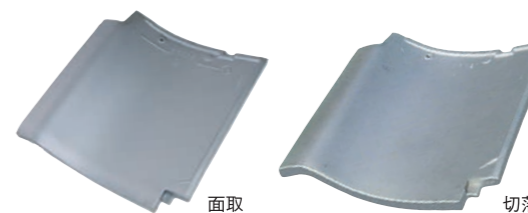
ナイス ミドリ



縦棧工法瓦

ナイスだぜガッチリくん

Nice, Gatchiri-kun



※ナイスだぜガッチリくんは、
ナイスミドリの防災機能に
縦棧工法機能をつけた瓦です。
※切落はナイスミドリ（切落）と
同じ商品です。



独自の合体構造と 特許工法の縦棧工法で さらに強い屋根を実現

地震に強い

台風に強い

従来の横棧木に引っ掛ける工法に加え、さらに縦棧木に組み込みロックする事で圧倒的強度を持たせた縦棧工法。台風や地震によるヨコズレ・タテズレを止め、瓦の飛散や落下を防ぐ事でより安心した住まいを実現できます。

工法による違い



棧葺き工法

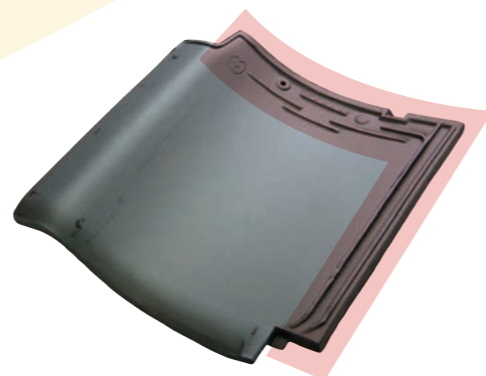


縦棧工法

縦棧木に瓦を固定する事で
ヨコズレを防止!!

Nice Midori+one

ナイス ミドリ プラスワン



緩勾配屋根に最適。

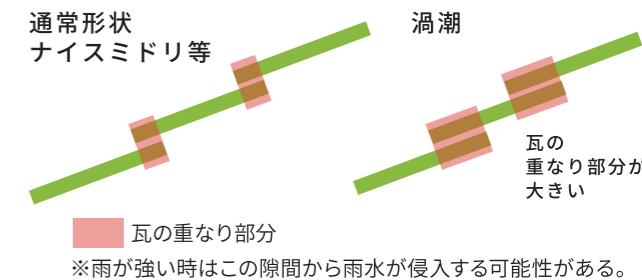
最低2寸8分勾配の屋根でも安心です。

新築物件はもちろん、セメント瓦等の緩勾配屋根の葺き替えにも安心してお勧めします。瓦表面上部、横縁に高さ6mmの立ち上がりとし、襟部分に二段の水返しを施し、裏面下部に毛細管作用防止の一線を施して、逆水、漏水、横漏れを完全にシャットアウトします。また、2つツメのかみ合わせにより地震や台風等による瓦のズレや飛散を防ぎます。合体構造なので、抜群の耐震・耐風性を発揮。地震や台風等の災害から住まいを守る優れたものです。

雨水の侵入を防ぐ
立ち上がりを強化

究極の対雨水侵入瓦

台風銀座の長崎県島原半島や五島列島で現在も使用されている瓦です。雨水に対する強さが実績で証明されています。全体のサイズは同じで瓦と瓦の被さりを大きくすることで、雨の侵入を防ぐ事を目的とした瓦です。



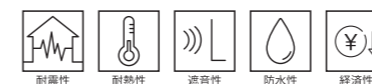
深切瓦

中深瓦



深切瓦 渦潮 / 中深瓦 千鳥

Uzushio / Chidori



和瓦の 細部の仕様

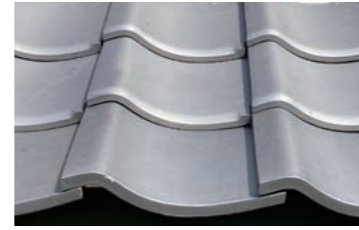
デザイン性のある瓦でワンランク上の見栄えに



万十軒



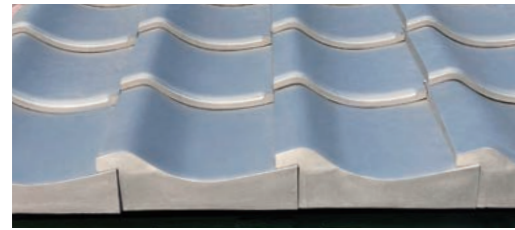
ストレート軒



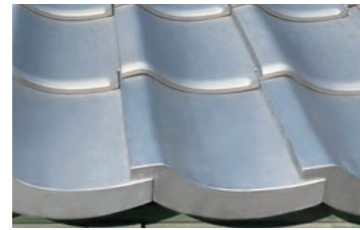
切落軒先瓦



粒入万十軒



一文字軒



カマ軒瓦

1 和形軒瓦

軒先を葺く瓦で水切りがよいように垂れが付いた瓦。軒先瓦、唐草瓦とも呼ばれています。軒瓦は万十軒瓦、一文字軒瓦が一般的なもの、特殊なものとしては、垂れ剣軒瓦、蛇の目軒瓦、巴唐草軒瓦などの種類があります。



刻み平 (千枚袖)



普通袖



紐袖

2 和形袖瓦

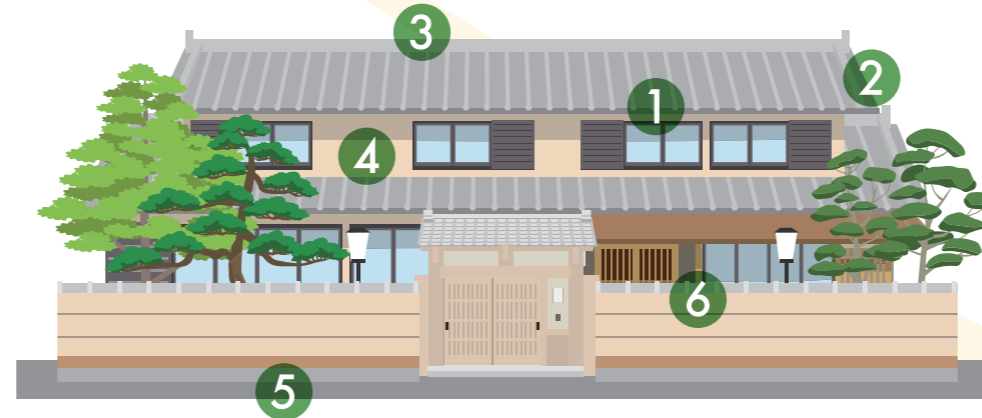
切妻屋根の破風部分 (けらば) に用いられる瓦で、軒瓦と同様に垂れが付いています。袖の垂れた部分を袖垂れと呼び、この寸法が大きいものを大袖、小さいものを小袖と呼び、また屋根の平側から見て左側に袖が付いているものを左袖、右のものを右袖と呼びます。さらにやや形が異なったものとして中付袖瓦、深袖瓦、車袖瓦などがあります。



中付袖

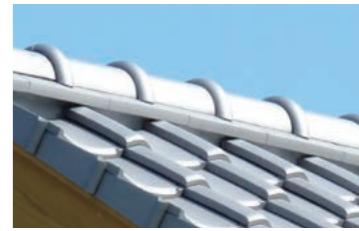


中付刻み袖



3 和形棟瓦

棟瓦は、瓦屋根の頂上部に位置する瓦を指します。雨漏りしやすい棟に瓦を設置することで、雨漏りを防止しているのです。そんな棟瓦には、熨斗 (のし) 瓦・冠瓦・鬼瓦が使用されており、それぞれに役目があります。漆喰で形成された土台の上に積む、短冊形の瓦です。



のし1段積+6寸紐丸



7寸紐丸

4 壁瓦

サイディングの表面に使用されるデザイン性の高い瓦です。サイディングを再塗装する必要がなくなり、住宅の寿命をのばす効果もあります。



割り肌ポーター瓦



Ibushi Block



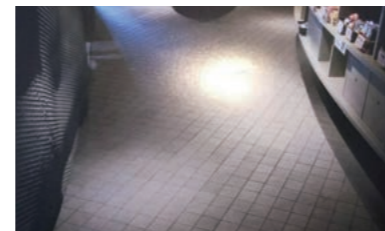
ナイス・ザ・フラット

5 敷瓦

石畳のように土間に敷かれた敷瓦は寺院などに多く採用されてきました。素朴で柔らかな質感で、タイルとは異なる温かみもあります。



熨斗瓦



敷瓦



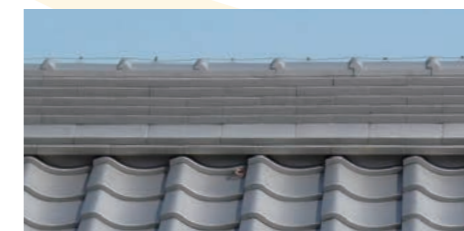
地瓦

6 塀瓦

塀の上に瓦を乗せることで、塀を守り、装飾します。住まいをより美しく、和の落ち着いた佇まいを作り出すことができます。



ナイス ザ フラット+5寸素丸



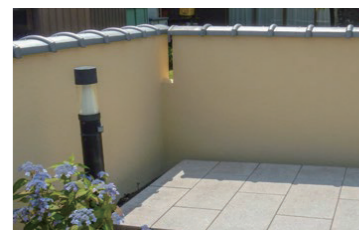
のし積



紐付三角棟



目板瓦



垂付雁振



マットな質感と自然な風合いが 高級感とスタイリッシュな趣を生み出します

古色いぶし瓦とは窯変瓦の技術を応用し、窯の雰囲気操る事で独特の風合いを醸し出した瓦です。
その使い方様々。洋風な家から古風な屋根まで幅広く演出が可能です。

防災機能



2つのツメのかみ合わせにより
地震や風雨による瓦の拡散を
防ぎます。

軒瓦デザインバリエーション

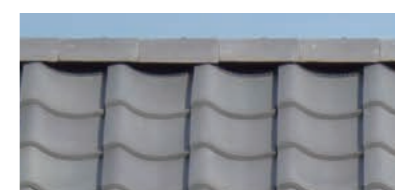


切落軒先

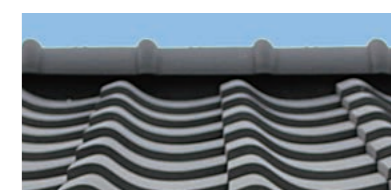


万十

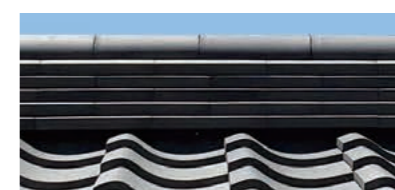
棟瓦デザインバリエーション



7寸素丸



7寸紐丸



のし積

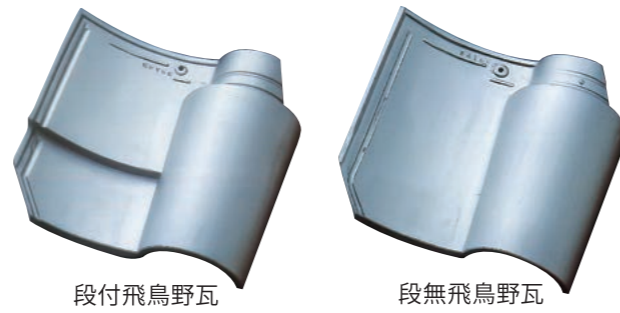
古色 IBUSHI

古色いぶし



耐震性 耐熱性 遮音性 防水性 経済性

飛鳥野瓦



段付飛鳥野瓦

段無飛鳥野瓦



従来型と比べ、屋根荷重が大幅に軽量！

堂宮建築に特化して誕生させた、平瓦と素丸瓦の一体型「段無飛鳥野瓦」。そして、これに新たな伝統的フォルムを与えた瓦が「段付飛鳥野瓦」です。

従来の瓦に葺き継ぎができ、同じ見た目を保つことができる上、屋根の大幅な軽量化を図ることが可能です。

引掛け棧工法であるため急勾配屋根にも最適で、躯体工事費も瓦施工費もコストダウン。在来型と異なる点は、一枚連結であるということ。これにより、ずれ落ち・飛散・風化などが起こりにくく、メンテナンス費用の負担が軽くなります。

【葺上がり重量の比較】

	1枚あたり重量	葺き上げ3.3㎡あたり	
		枚数	重量
従来型	9×尺本平3.3kg	96枚	403kg 葺土(除外)
	径5寸素丸1.96kg	44枚	



飛鳥野瓦	3.7kg	52枚	189kg
------	--------------	------------	--------------



段付飛鳥野瓦



段無飛鳥野瓦

軒瓦デザインバリエーション



粒入軒巴



別注紋入軒巴



別注紋入軒巴



Before After

ビフォー アフター

瓦を変えるだけで
まるで新築のような佇まいに。



Before<釉薬S型瓦> ▶ After<いぶし和形瓦>
棟を積まない洋風S瓦から棟を積む和風屋根にすると家に重厚感を与えます。



他の屋根材には無い窯変瓦独特の雰囲気が高級感を醸し出します。塗装不要なので今後も安心して暮らせます。



Before<カラーベスト瓦>
▶ After<窯変平板瓦>



Before<セメント瓦>
▶ After<ナイス ザ サミット>
和形スレート瓦をいぶしの平板に棟積をすることで新和風の味を出します。



Before<いぶし和形瓦>
▶ After<いぶし和形瓦>



Before<いぶし和形瓦>
▶ After<いぶし和形瓦>



Before<釉薬和形瓦>
▶ After<いぶし和形瓦>



Point 瓦屋根の軽量化 葺き替えと同時の施工が可能です。

●土葺きから棧葺きへ

1㎡あたり50～60kgの土を取り除く事で、100㎡あたり5t～6tも重量を軽減する事が出来ます。



土葺き工法



棧葺き工法

●降り棟の撤去 (写真はイメージです)

降り棟を撤去する事で1本につき約500kgの重さを軽減。合計4本あるので約2tの重さを軽減出来ます。



撤去前



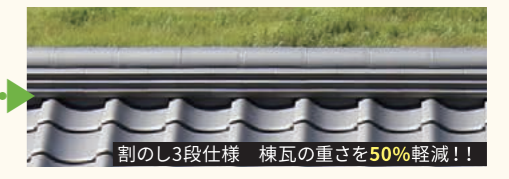
撤去後

●棟瓦の段数を低くする

棟瓦には多くの種類があり、組み合わせを変える事で軽量化を図る事が出来ます。棟瓦を変えるだけでも印象がガラリと変わります。



台のし2段+割のし5段仕様



割のし3段仕様 棟瓦の重さを50%軽減!!



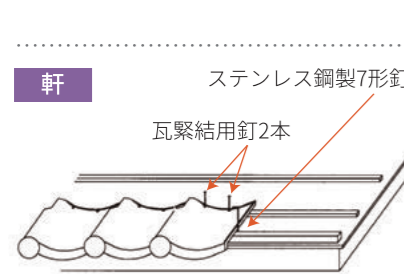
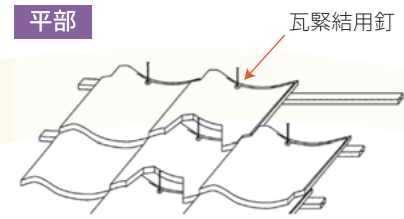
7寸紐丸仕様 棟瓦の重さを85%軽減!!

地震・台風に強い

ガイドライン工法

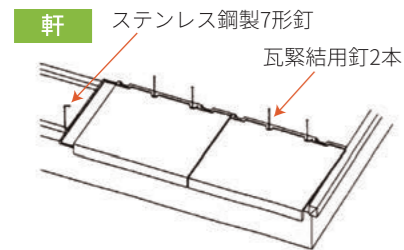
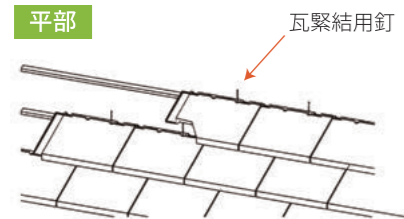
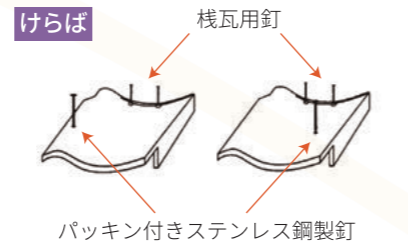
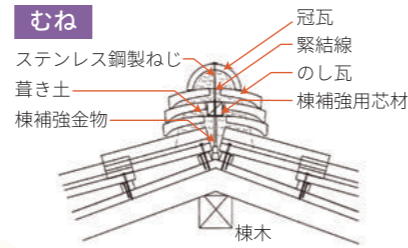


高品質な瓦と優れた施工方法。この二つが揃ってはじめて、安心・快適な瓦屋根ができあがります。
 緑窯業では、最新の実験データに基づいた「ガイドライン工法」を推奨。
 そのメリットは、従来の施工法に比べて耐震性・耐風性が飛躍的にアップしたことです。
 耐震実験では、阪神・淡路大震災や発生が危惧される東海大地震クラスの揺れにも耐えることが証明されました。



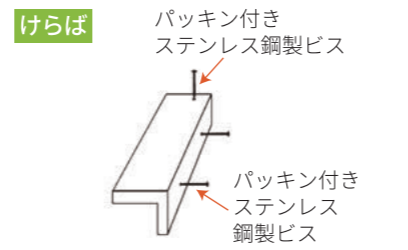
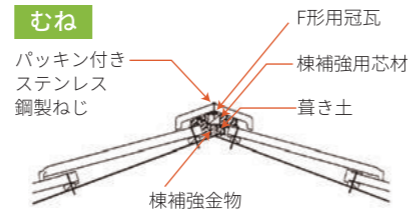
J形瓦
 瓦の種類、部位、基準風速に応じた
 緊結方法を規定
 ●部位別の緊結方法

平部 釘等で緊結 **むね** ねじで緊結
軒・けらば 3本の釘等
 (釘またはねじ)で緊結
 ※ねじは「木ねじ」を使用しています



F形瓦
 瓦の種類、部位、基準風速に応じた
 緊結方法を規定
 ●部位別の緊結方法

平部 釘等で緊結 **むね** ねじで緊結
軒・けらば 3本の釘等
 (釘またはねじ)で緊結



標準屋根勾配と流れ長さ

Nice The Flat / Nice The Summit / ナイスミドリ / ナイスだぜガッチリ君 / 古色いぶし					
標準屋根勾配	4.0/10	4.5/10	5.0/10	5.5/10	6.0/10
流れの長さ(切妻)	8m	10m	12m	15m	17m

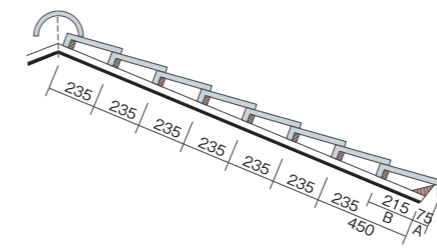
Nice The Noah / ナイスミドリ+ONE						
標準屋根勾配	3.0/10	3.5/10	4.0/10	4.5/10	5.0/10	5.5/10
流れの長さ(切妻)	8m	10m	12m	15m	17m	20m

働き寸法

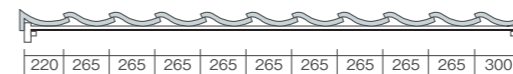
品種	製品	外形寸法		働き寸法	
		全長	全幅	長さ	幅
平板	Nice The Flat	350±4mm	345±4mm	273~280mm	305±4mm
	Nice The Noah	350±4mm	345±4mm	270~280mm	305±4mm
	Nice The Summit	350±4mm	345±4mm	280~282mm	305±4mm
和形	ナイスミドリ	305±4mm	305±4mm	235±4mm	265±4mm
	ナイスだぜガッチリ君	305±4mm	305±4mm	235±4mm	265±4mm
	ナイスミドリ+ONE	305±4mm	305±4mm	235±4mm	265±4mm
	深切	305±4mm	305±4mm	192±4mm	265±4mm
	中深	305±4mm	305±4mm	215±4mm	265±4mm
	古色いぶし	305±4mm	305±4mm	235±4mm	265±4mm

ナイスミドリ / ナイスミドリ+ONE /
 ナイスだぜガッチリ君 / 古色いぶし

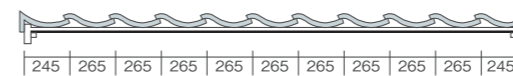
瓦割付寸法



差し葺き施工の場合

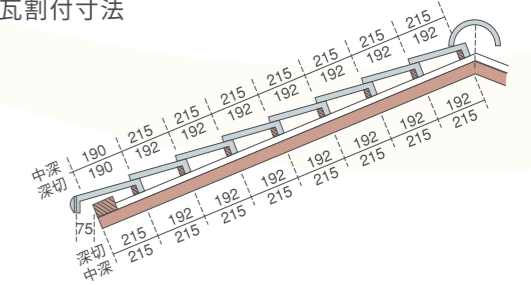


覆せ葺き施工の場合

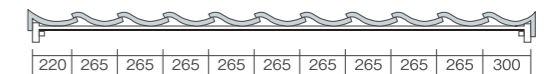


深切 / 中深

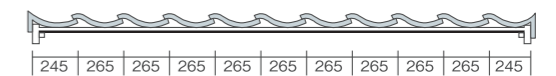
瓦割付寸法



差し葺き施工の場合



覆せ葺き施工の場合



column 淡路瓦の小物



コースター

鬼師が手掛ける鬼瓦から小物まで多種多様です。

淡路瓦の世界には伝統の技術を継承する、「鬼師」と呼ばれる職人がいます。
 その職人が作ったインテリア・エクステリア製品でお住いを彩りませんか？
 ランプシェードや花器、プランター、小物、
 普段は高い屋根の上であり、鬼師による細かい細工を見ることができない
 鬼面瓦やその他飾り瓦など、様々な製品をお求めいただけます。
 お住いのインテリア小物、または贈答品として
 「いぶし瓦」を活用してみませんか。



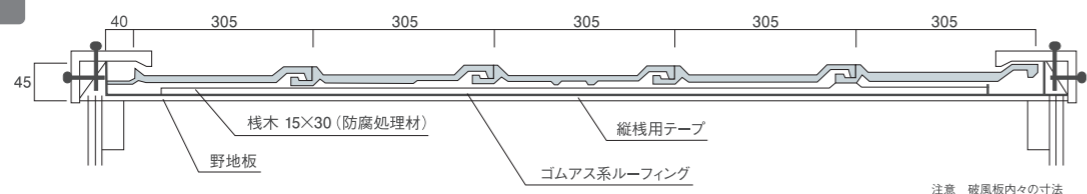
表札

花器

鍋敷

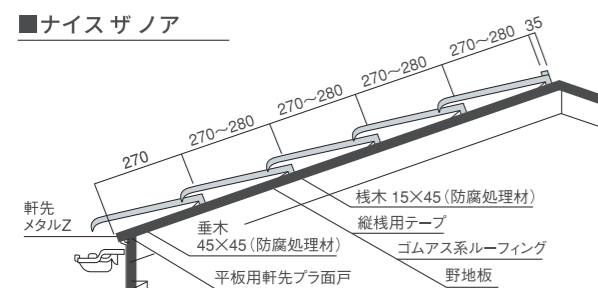
瓦割付寸法

横割寸法図

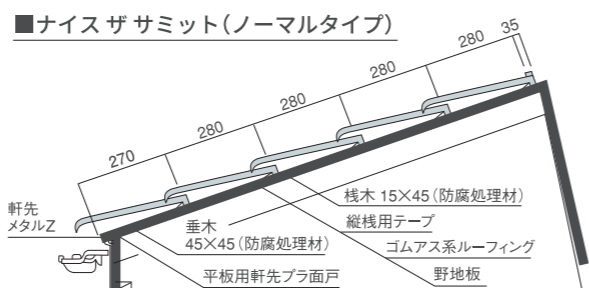


登り寸法図

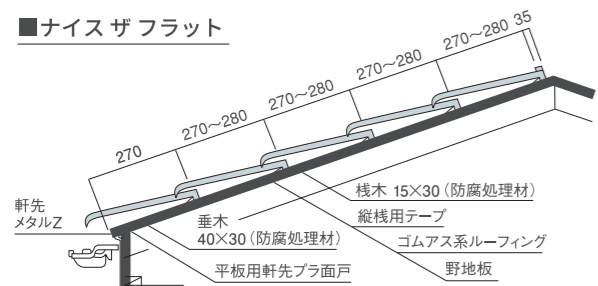
■ナイスザノア



■ナイスザサミット(ノーマルタイプ)

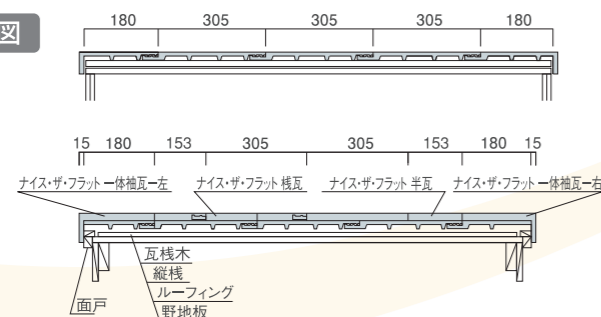


■ナイスザフラット

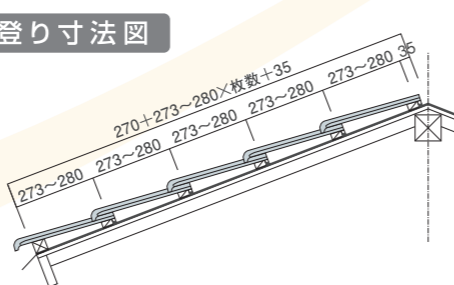


■フラット一体軸を使用した場合(オプション) 306×枚数+180+180

横割寸法図

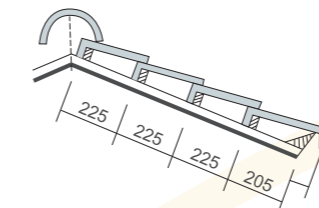
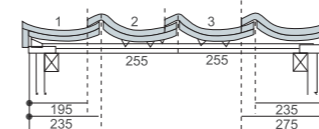
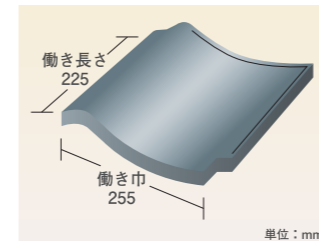


登り寸法図

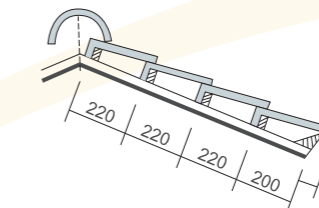
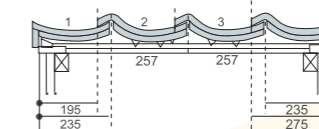
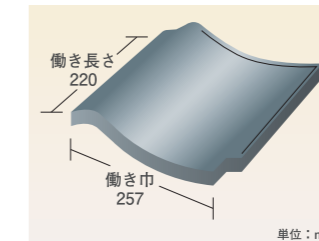


修理・補修に便利なアイテム

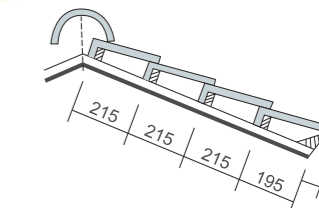
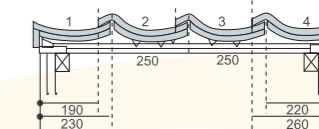
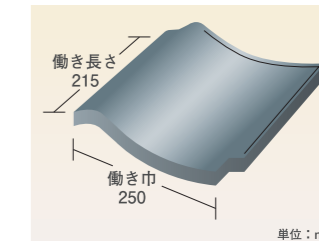
56判 切落・面取



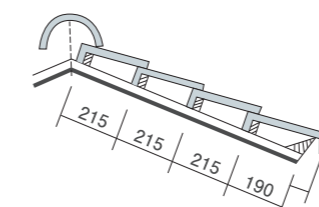
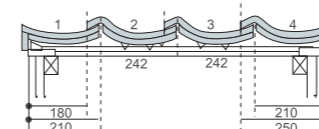
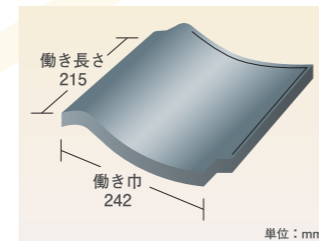
58判 切落・面取



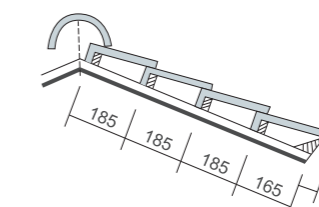
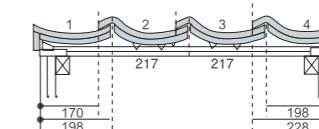
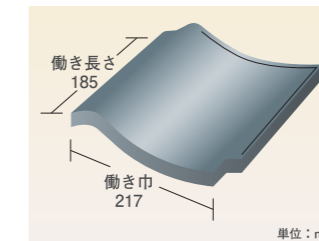
60判 切落・面取



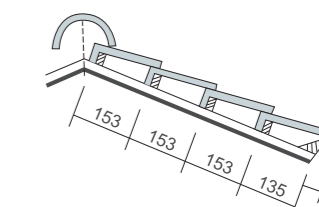
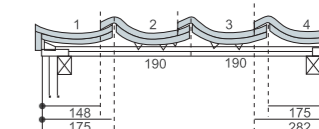
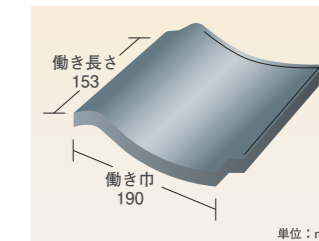
64判 切落・面取



80判 切落・面取

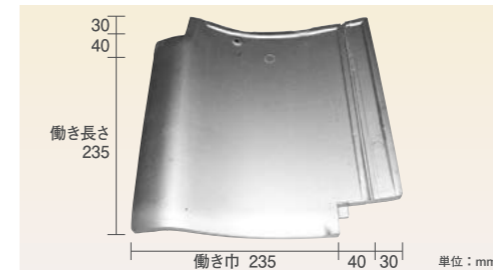


100判 切落・面取

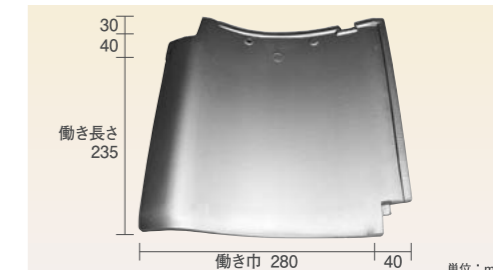


その他の緑窯業製品販売品

調整瓦 面取



幅広調整瓦 面取・切落



※上記寸法表は参考寸法割図です。多少割りが変わる場合もありますので、ご不明な点はお問い合わせ下さい。

color

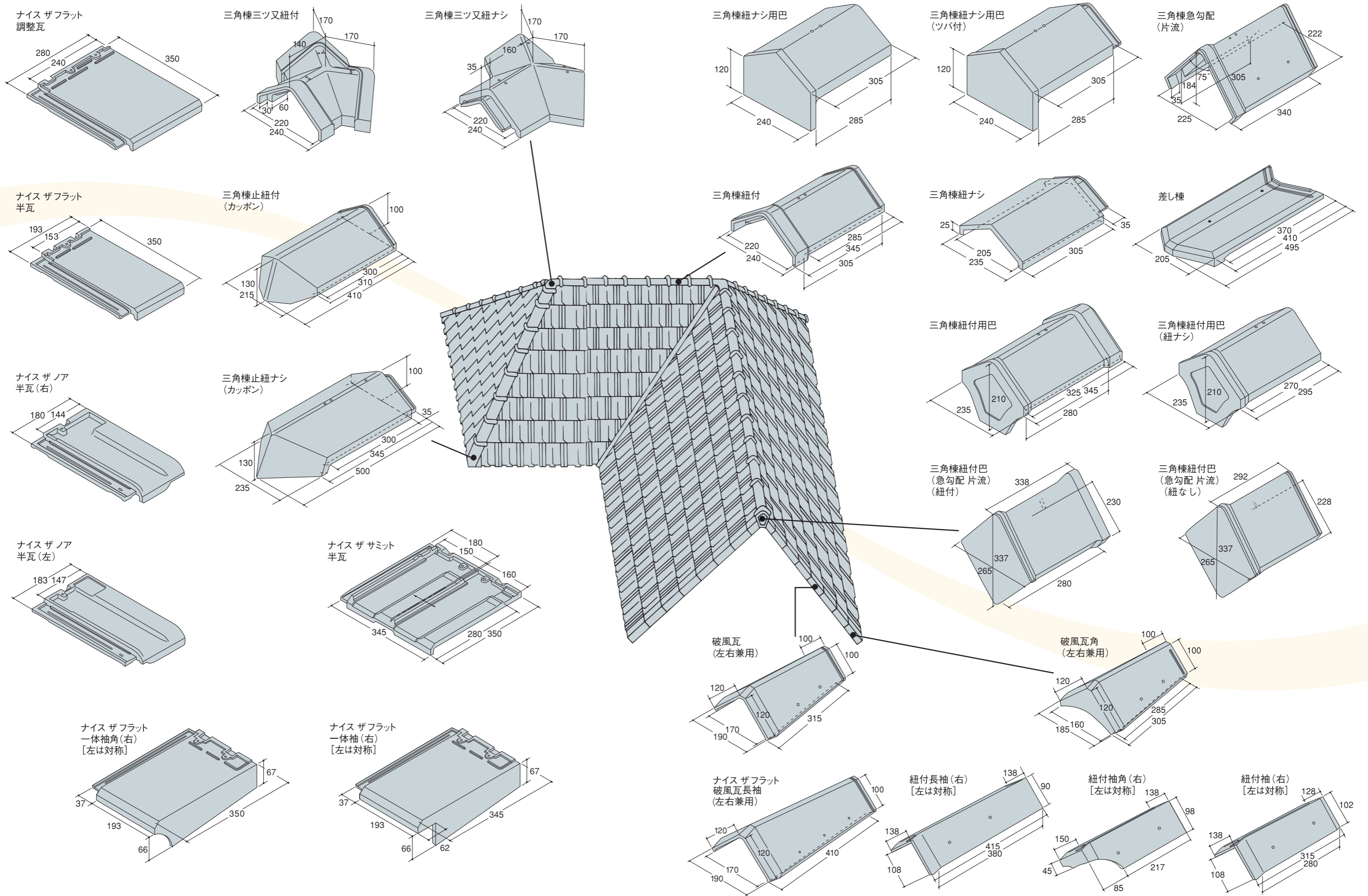
淡路瓦の色について(マンセル値)

各地域の景観法に基づく「景観色彩ガイドライン」による屋根や外壁等の使用可否判断の一助とするために、ご確認または、ご参考ください。

色名	マンセル値(参考)				マンセル値(参考)
	和瓦	サミット	フラット	ノア	
いぶし	●	●	●	●	8.1PB 5.55/9.31
古色いぶし	●				N3.34

測定日/2022年7月8日 測定機種/日本電色 SE6000 条件/瓦ピース 測定4回平均

ナイスシリーズ 瓦の種類と使用箇所



淡路いぶし瓦の種類

(部位別に並べてあります) (K) -切落、(M) -面取、R-右、L-左

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
1	AW・J-10 (K) 棧瓦 (切落)	AW・J-10 (M) 棧瓦 (面取)	AW・J-11 (K) 足深棧瓦 (片) (中深)	AW・J-12 (M) 足深棧瓦 (片) (中深)	AW・J-13 (M) 小幅棧瓦 (地割調整用)	AW・J-14 (M) 左棧瓦	AW・J-16 (M) 輪型雪止瓦	AW・J-17-1 (K) シノギ棧瓦	AW・J-17-2 (K) 煙突丸窓瓦1枚物 (64判)	AW・J-17-3 (K) 煙突丸窓瓦2枚物 (64判)	AW・J-17-4 (K) 煙突丸窓瓦4枚物 (64判)	AW・J-17-5 (M) 天窓瓦4枚 (64判)	AW・J-17-6 (M) 天窓瓦6枚 (64判)	AW・J-17-7 (M) 天窓瓦9枚 (64判)	AW・J-17-8 (M) 天窓瓦12枚 (64判)	斑鳩路瓦	AW・J-20 (K) 袖瓦 (右)	AW・J-20 (K) 袖瓦 (左)
2	AW・J-20 (M) 袖瓦 (右)	AW・J-20 (M) 袖瓦 (左)	AW・J-21 (M) 紐袖瓦 (右)	AW・J-21 (M) 紐袖瓦 (左)	AW・J-23 (M) 中付け袖瓦 (右)	AW・J-23 (M) 中付け袖瓦 (左)	AW・J-24 (M) 見せ掛け袖瓦 (横車) (右)	AW・J-24 (M) 見せ掛け袖瓦 (横車) (左)	AW・J-24-1 (K) 見せ掛け袖瓦 (横車) (つづ入り) (右)	AW・J-24-1 (K) 見せ掛け袖瓦 (横車) (つづ入り) (左)	AW・J-24-1-1 (M) 丸伏せ見せ掛け袖瓦 (横車) (つづ入り) (右)	AW・J-24-1-1 (M) 丸伏せ見せ掛け袖瓦 (横車) (つづ入り) (左)	AW・J-24-2 (K) 丸伏せ見せ掛け袖瓦 (横車) (右)	AW・J-24-2 (K) 丸伏せ見せ掛け袖瓦 (横車) (左)	AW・J-24-2-1 (M) 丸伏せ見せ掛け袖瓦 (横車) (右)	AW・J-24-2-1 (M) 丸伏せ見せ掛け袖瓦 (横車) (左)	AW・J-25-1 (K) 刻み袖瓦 (働き長さ5寸) (右)	AW・J-25-1 (K) 刻み袖瓦 (働き長さ5寸) (左)
3	AW・J-26 (K) 平 (積蓋) 袖瓦 (刻み平) (右)	AW・J-26-1 (R) 平袖角瓦無地 (右)	AW・J-26-1 (L) 平袖角瓦無地 (左)	AW・J-26-2 (L) 平袖角瓦唐草入 (左)	AW・J-26-3 (K) 横平 (積蓋) 袖瓦 (刻み平) (右)	AW・J-26-4 (R) 横平袖角瓦無地 (右)	AW・J-26-5 (R) 横平袖角瓦唐草入 (右)	AW・J-26-6 (K) 深袖瓦 (右)	AW・J-26-6 (L) 深袖瓦 (左)	AW・J-26-6 (M) 深袖瓦 (右)	AW・J-26-6 (L) 深袖瓦 (左)	AW・J-26-7 (M) 深切袖瓦 (深切棧瓦用) (右)	AW・J-26-7 (L) 深切袖瓦 (深切棧瓦用) (左)	AW・J-26-9 (K) 中付刻み袖瓦 (働き長さ4寸) (右)	AW・J-26-9 (L) 中付刻み袖瓦 (働き長さ4寸) (左)	AW・J-26-11 (K) 深切シノギ棧紐袖瓦 (右)	AW・J-26-11 (L) 深切シノギ棧紐袖瓦 (左)	AW・J-30 (K) 万十軒瓦
4	AW・J-30-1 (K) 雀口付万十軒瓦	AW・J-30-2 (R) シノギ棧万十軒瓦	AW・J-31 (L) 万十唐草軒瓦	AW・J-32 (L) 巴付唐草 (京花) 軒瓦	AW・J-32 (R) 石持万十軒瓦	AW・J-34 (R) 一文字軒瓦 (1寸5分)	AW・J-34-1 (R) 一文字軒瓦 (2寸)	AW・J-34-3 (K) 平一文字 (平鎌) (1寸5分)	AW・J-35 (L) 中付一文字軒瓦	AW・J-36 (M) 万十一文字軒瓦 (淀屋)	AW・J-36-1 (R) 石持万十一文字軒瓦 (淀屋石持)	AW・J-38 (L) 鎌軒瓦 (無地)	AW・J-39 (R) 鎌唐草軒瓦	AW・J-40 (R) 剣高万十軒瓦	AW・J-50 (R) 万十袖角瓦 (右)	AW・J-50 (L) 万十袖角瓦 (左)	AW・J-51 (R) 万十唐草袖角瓦 (右)	AW・J-51 (L) 万十唐草袖角瓦 (左)
5	AW・J-52 (R) 巴付唐草 (京花) 袖角瓦 (右)	AW・J-52 (L) 巴付唐草 (京花) 袖角瓦 (左)	AW・J-53 (R) 石持万十袖角瓦 (右)	AW・J-53 (L) 石持万十袖角瓦 (左)	AW・J-54 (R) 一文字袖角瓦 (1寸5分) (右)	AW・J-54 (L) 一文字袖角瓦 (1寸5分) (左)	AW・J-54-1 (R) 一文字袖角瓦 (2寸) (右)	AW・J-54-1 (L) 一文字袖角瓦 (2寸) (左)	AW・J-55 (R) 中付袖一文字袖角瓦 (右)	AW・J-55 (L) 中付袖一文字袖角瓦 (左)	AW・J-56 (R) 万十一文字袖角瓦 (淀屋) (右)	AW・J-56 (L) 万十一文字袖角瓦 (淀屋) (左)	AW・J-56-1 (R) 石持万十一文字袖角瓦 (淀屋) (右)	AW・J-56-1 (L) 石持万十一文字袖角瓦 (淀屋) (左)	AW・J-58 (R) 鎌袖角瓦 (右)	AW・J-58 (L) 鎌袖角瓦 (左)	AW・J-20 (R) 鎌唐草袖角瓦 (右)	AW・J-20 (L) 鎌唐草袖角瓦 (左)
6	AW・J-64 (R) 中付袖万十袖角瓦 (右)	AW・J-64 (L) 中付袖万十袖角瓦 (左)	AW・J-65 (R) 見せ掛袖角瓦 (横車) (右)	AW・J-65 (L) 見せ掛袖角瓦 (横車) (左)	AW・J-65-1 (R) 見せ掛袖角瓦 (横車) (つづ入り) (右)	AW・J-65-1 (L) 見せ掛袖角瓦 (横車) (つづ入り) (左)	AW・J-65-2 (R) 丸伏せ見せ掛袖角瓦 (横車) (右)	AW・J-65-2 (L) 丸伏せ見せ掛袖角瓦 (横車) (左)	AW・J-65-3 (R) 丸伏せ見せ掛 (横車) 京花唐草袖角瓦 (右)	AW・J-65-3 (L) 丸伏せ見せ掛 (横車) 京花唐草袖角瓦 (左)	AW・J-66-1 (R) 刻み袖 (唐草彫り入り) (つづ入り袖角瓦) (右)	AW・J-66-1 (L) 刻み袖 (唐草彫り入り) (つづ入り袖角瓦) (左)	AW・J-66-2 (R) 中付刻み袖角瓦 (右)	AW・J-66-2 (L) 中付刻み袖角瓦 (左)	AW・J-68 (R) 重箱 (右) (晒し置き・奴置き) 用	AW・J-68 (L) 重箱 (左) (晒し置き・奴置き) 用	AW・J-70 (R) 万十切隅瓦 (組) (右・左)	AW・J-71 (L) 万十唐草切隅瓦 (組) (右・左)
7	AW・J-72 (R) 巴付唐草 (京花) 切隅瓦 (組) (右・左)	AW・J-73 (L) 石持万十切隅瓦 (組) (右・左)	AW・J-74 (L) 一文字切隅瓦1寸5分 (組) (右・左)	AW・J-74-1 (L) 一文字切隅瓦2寸 (組) (右・左)	AW・J-76 (R) 万十一文字切隅瓦 (淀屋) (組) (右・左)	AW・J-78 (L) 鎌切隅瓦 (組) (右・左)	AW・J-79 (R) 鎌唐草切隅瓦 (組) (右・左)	AW・J-80 (R) 剣高万十切隅瓦 (組) (右・左)	AW・J-84 (R) 廻り隅瓦 (万十トシビ)	AW・J-90 (R) 万十掛瓦 (尺) (右)	AW・J-90 (L) 万十掛瓦 (尺) (左)	AW・J-90-1 (R) 万十掛瓦 (尺2寸) (右)	AW・J-90-1 (L) 万十掛瓦 (尺2寸) (左)	AW・J-90-5 (R) 剣高万十掛瓦 (尺) (右)	AW・J-90-6 (R) 剣高万十掛瓦 (尺2寸) (右)	AW・J-90-6 (L) 剣高万十掛瓦 (尺2寸) (左)	AW・J-90-7 (R) 剣高京花掛瓦 (尺) (右)	AW・J-90-7 (L) 剣高京花掛瓦 (尺) (左)
8	AW・J-91 (L) 万十唐草掛瓦 (尺) (左)	AW・J-92 (R) 巴付唐草 (京花) 掛瓦 (尺) (右)	AW・J-92 (L) 巴付唐草 (京花) 掛瓦 (尺) (左)	AW・J-93 (R) 石持万十掛瓦 (尺) (右)	AW・J-93 (L) 石持万十掛瓦 (尺) (左)	AW・J-94 (L) 一文字掛瓦 (左)	AW・J-98 (R) 鎌掛瓦 (尺2寸) (右)	AW・J-99 (R) 鎌唐草掛瓦 (尺3寸) (右)	AW・J-100-1 (R) 面戸付剣高万十掛瓦 (尺2寸) (右)	AW・J-100-1 (L) 面戸付剣高万十掛瓦 (尺2寸) (左)	AW・J-103-1 (R) (新) 本掛一対型掛瓦 (右)	AW・J-103-1 (L) (新) 本掛一対型掛瓦 (左)	AW・J-103-2 (R) (新) 本掛一対型剣高掛瓦 (右)	AW・J-103-2 (L) (新) 本掛一対型剣高掛瓦 (左)	AW・J-200 (R) 厚のし瓦	AW・J-201 (R) 大幅のし瓦	AW・J-202-1 (R) 片台面のし瓦	AW・J-202-2 (R) 両紐台面のし瓦
9	AW・J-202-3 (R) 片紐台面のし瓦	AW・J-203 (R) 薄のし瓦	AW・J-203-1 (R) 糸のし瓦	AW・J-204 (R) 紐のし瓦 (片紐のし) (大)	AW・J-205 (R) 紐のし瓦 (中) (1寸)	AW・J-206 (R) 紐のし瓦 (小) (5分)	AW・J-207 (R) 両切りのし瓦	AW・J-208 (R) 菱のし瓦 (ダイヤのし) (3~6個)	AW・J-209 (R) 松皮菱のし瓦 (3個)	AW・J-210 (R) 箱のし瓦 (大名のし)	AW・J-211 (R) 紐付箱のし瓦 (紐付大名) (5分)	AW・J-212 (R) 削のし瓦	AW・J-213 (R) のし止め瓦 (のし鼻) (2段用)	AW・J-213-1 (R) のし止め瓦 (のし鼻) (3段用)	AW・J-213-3 (R) 木の葉のし瓦	AW・J-213-4 (R) 雲万十のし (1個)	AW・J-213-5 (R) 雲万十のし (3個)	AW・J-213-6 (R) 雲蛇の目万十のし瓦 (3個)
10	AW・J-213-7 (R) 壘万十	AW・J-213-8 (R) 青海波のし (輪のし) (3個)	AW・J-213-9 (R) 三角波のし瓦	AW・J-220 (R) 土居面戸瓦 (櫛形面戸瓦)	AW・J-221 (R) 隅面戸瓦 (櫛形面戸瓦) (右)	AW・J-221 (L) 隅面戸瓦 (櫛形面戸瓦) (左)	AW・J-222 (R) 面戸付土居丸瓦	AW・J-222-1 (R) 抱き丸 (右)	AW・J-222-1 (L) 抱き丸 (左)	AW・J-230 (R) 5寸紐丸瓦	AW・J-231 (R) 5寸紐丸瓦曲り	AW・J-231-2 (R) 5寸紐丸瓦両棧	AW・J-231-3 (R) 5寸紐丸瓦三つ又	AW・J-231-4 (R) 5寸紐丸瓦四つ又	AW・J-231-5 (R) 5寸紐丸瓦振れ巴 (右・左)	AW・J-231-6 (R) 5寸紐丸瓦カッポン	AW・J-231-7 (R) 5寸紐丸隅隅飾り恵比寿	AW・J-231-8 (R) 5寸紐丸隅隅飾り大黒

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
11	AW・J-231-9 5寸紐丸堀隅飾り立浪	AW・J-231-10 5寸紐丸堀隅飾り鳩	AW・J-231-11 5寸紐丸堀隅飾り桃	AW・J-231-12 6寸紐丸瓦	AW・J-231-13 6寸紐丸瓦巴(紐付)	AW・J-231-14 6寸紐丸瓦曲り	AW・J-231-15 6寸紐丸瓦両棧	AW・J-231-16 6寸紐丸瓦三つ又	AW・J-231-17 6寸紐丸瓦四つ又
12	AW・J-231-26 7寸紐丸瓦振れ巴(菱巴)(左)	AW・J-231-27 7寸紐丸瓦カッポン	AW・J-231-28 8寸大紐丸瓦	AW・J-232 棟素丸瓦(径5寸)	AW・J-233 棟素丸瓦曲り(右)	AW・J-233 棟素丸瓦曲り(左)	AW・J-233-1 棟素丸瓦三つ又	AW・J-233-2 袖瓦(右)	AW・J-233-3 棟素丸瓦止め(端)
13	AW・J-253-1 丸棧伏間(雁振)瓦隅(組)	AW・J-253-2 丸棧伏間(雁振)瓦ナマ隅(別注)	AW・J-253-3 丸棧伏間(雁振)瓦三つ又	AW・J-253-4 丸棧伏間(雁振)瓦四つ又	AW・J-253-9 丸棧伏間(雁振)瓦堀隅飾り打出の小槌	AW・J-253-11 紐付雁振瓦	AW・J-253-12 紐付雁振瓦両棧	AW・J-253-13 紐付雁振瓦曲り	AW・J-253-14 紐付雁振瓦止め(端)(扇型)
14	AW・J-270 京箱丸棧(大)	AW・J-270-1 京箱丸棧両棧	AW・J-270-2 京箱丸棧曲り	AW・J-270-3 京箱丸棧止め(端)	AW・J-272 京箱丸棧(小)	AW・J-273 京箱角棧(伊勢箱)(大)	AW・J-273-2 京箱角棧(伊勢箱)曲り	AW・J-273-3 京箱角棧(伊勢箱)止め(端)	AW・J-275 京箱角棧(伊勢箱)(小)
15	AW・J-287-5 尺丸棧雁振曲り	AW・J-287-6 尺丸棧雁振止め(端)	AW・J-287-8 尺丸棧雁振両棧	AW・J-287-9 尺丸棧雁振	AW・J-293 付丸	AW・J-293-1 付丸曲り	AW・J-293-2 付丸止め(端)	AW・J-294 紐付き付丸	AW・J-294-1 紐付き付丸両棧
16	AW・J-297-4 垂れ紐付きのし丸	AW・J-297-5 垂れ紐付きのし丸両棧	AW・J-297-6 垂れ紐付きのし丸曲り	AW・J-297-7 垂れ紐付きのし丸止め(端)	AW・J-300 棟巴(跨巴)瓦万十(8寸)	AW・J-301 棟巴(跨巴)瓦尺石持(ベタ)	AW・J-301-1 棟巴(跨巴)瓦8寸石持(ベタ)	AW・J-303 棟巴(跨巴)瓦面戸付(万十)(8寸)	AW・J-304 棟巴(跨巴)瓦中付万十巴
17	AW・J-307-1 浪千鳥半月巴	AW・J-307-2 分銅巴	AW・J-308 半月鬼	AW・J-308-1 千鳥半月巴	AW・J-308-3 掛巴(万十)(尺2寸)	AW・J-309 小巴瓦(尺)(未広巴万十)	AW・J-309-2 小巴瓦(尺)(未広巴つつ入り)	AW・J-309-4 小巴瓦(尺2寸)(未広巴石持)	AW・J-310 隅巴瓦(万十)
18	AW・J-322 棟込瓦輪違い	AW・J-323 棟込瓦連結輪違い	AW・J-324 棟込瓦松皮菱	AW・J-325 棟込瓦青海波	AW・J-325-1 棟込瓦并筒2寸×6寸3分(小)3寸6分×7寸2分(大)	AW・J-325-5 棟込瓦寺号・山号(別注)	AW・J-325-5 棟込瓦寺号・山号(別注)	AW・J-325-5 棟込瓦寺号・山号(別注)	AW・J-325-6 棟込瓦水板(装飾彫刻物)(鶴)(別注)
19	AW・J-330-10 巴蓋(恵比寿)	AW・J-330-11 巴蓋(大黒)	AW・J-331 隅留蓋(立浪)	AW・H-1(K) 本葺用5分平瓦(切落)	AW・H-1-1(M) 本葺用5分平瓦(面取)	AW・H-2 本葺用5分唐草(模榑入)軒瓦	AW・H-3 本葺用5分平鎌(無地)軒瓦	AW・H-4 本葺用5分敷平瓦	AW・H-4-1 本葺用5分敷平切隅(右)
20	AW・H-7-2 本葺用5分一の平・二の平一体型掛瓦(右左兼用)(無地)	AW・H-7-3 本葺用5分一の平・二の平一体型掛瓦(右左兼用)(唐草入)	AW・H-7-4 本葺用5分一の平・二の平一体型掛瓦(右左兼用)剣高(無地)	AW・H-7-5 本葺用5分一の平・二の平一体型掛瓦(右左兼用)剣高(唐草入)	AW・H-7-8 本葺用5分平唐草切隅瓦(右)	AW・H-8 本葺用5分平唐草切隅瓦(左)	AW・H-11 本葺用5分うつぼ唐草(箱二の平)掛瓦	AW・H-11-2 本葺用5分切妻用本掛隅唐草切隅(尺2寸)(右)	AW・H-11-2 本葺用5分切妻用本掛隅唐草切隅(尺2寸)(左)
21	AW・H-17-2 本葺用5分袖丸瓦(働き長さ7寸×垂れ5寸)(右)	AW・H-17-2 本葺用5分袖丸瓦(働き長さ7寸×垂れ5寸)(左)	AW・H-18 本葺用5分谷巴瓦(右)	AW・H-18 本葺用5分谷巴瓦(左)	AW・H-19 本葺用5分水返し付平瓦(引掛棧付)(奈良式)	AW・H-20 本葺用5分谷瓦(谷平瓦)(右)	AW・H-20 本葺用5分谷瓦(谷平瓦)(左)	AW・H-21 本葺用5分箕甲(蟹)面戸瓦	AW・H-22 本葺用5分棟面戸(土居面戸)瓦

	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
11	AW・J-231-18 6寸紐丸瓦振れ巴(右)	AW・J-231-18 6寸紐丸瓦振れ巴(左)	AW・J-231-19 6寸紐丸瓦カッポン	AW・J-231-20 7寸紐丸瓦	AW・J-231-21 7寸紐丸瓦巴	AW・J-231-23 7寸紐丸瓦両棧	AW・J-231-24 7寸紐丸瓦三つ又	AW・J-231-25 7寸紐丸瓦四つ又	AW・J-231-26 7寸紐丸瓦振れ巴(菱巴)(右)
12	AW・J-233-4 棟用素丸瓦(径6寸)	AW・J-233-5 棟用素丸瓦(径7寸)	AW・J-240 角棧伏間(雁振)瓦	AW・J-241 角棧伏間(雁振)瓦両棧	AW・J-242 角棧伏間(雁振)瓦曲り	AW・J-243 角棧伏間(雁振)瓦止め(端)(扇型)	AW・J-250 丸棧伏間(雁振)瓦	AW・J-251 丸棧伏間(雁振)瓦両棧	AW・J-253 丸棧伏間(雁振)瓦止め(端)(扇型)
13	AW・J-260 京伏間(垂付雁振)瓦	AW・J-261 京伏間(垂付雁振)瓦両棧	AW・J-262 京伏間(垂付雁振)瓦曲り	AW・J-262-1 京伏間(垂付雁振)瓦隅(組)	AW・J-263 京伏間(垂付雁振)瓦止め(端)(扇型)	AW・J-263-1 幅広京伏間(垂付雁振)瓦	AW・J-263-2 幅広京伏間(垂付雁振)瓦両棧	AW・J-263-3 幅広京伏間(垂付雁振)瓦曲り	AW・J-263-4 幅広京伏間(垂付雁振)瓦止め(端)(扇型)
14	AW・J-276 一体棟瓦3段用	AW・J-277 一体棟瓦2段用	AW・J-285 亀伏間	AW・J-286 亀伏間曲り	AW・J-287 亀伏間止め(端)	AW・J-287-1 新亀伏間	AW・J-287-2 新亀伏間曲り	AW・J-287-3 新亀伏間止め(端)	AW・J-287-4 尺丸棧雁振
15	AW・J-294-2 紐付き付丸曲り	AW・J-294-3 紐付き付丸止め(端)	AW・J-295 垂れ紐付き付丸	AW・J-295-1 垂れ紐付き付丸両棧	AW・J-295-2 垂れ紐付き付丸曲り	AW・J-295-3 垂れ紐付き付丸止め(端)	AW・J-296 のし丸	AW・J-296-1 のし丸曲り	AW・J-296-2 のし丸止め(端)
16	AW・J-304-5 浪巴	AW・J-304-7 一文字石持坪み巴	AW・J-305-1 棟巴瓦模榑入(鶴)(尺)	AW・J-305-1 棟巴瓦模榑入(亀)(尺)	AW・J-305-2 万十三日月巴(8寸)	AW・J-305-3 万十軒巴(尺2寸)	AW・J-305-4 牡丹二の巴	AW・J-306 半月巴万十	AW・J-307 半月巴石持(ベタ)
17	AW・J-311 隅巴瓦模榑入(つつ入り)	AW・J-311-2 剣先模榑入隅巴	AW・J-311-4 鯉模榑入隅巴	AW・J-312 網笠隅巴瓦(鎌棟用)	AW・J-313 駒隅巴瓦(一文字用)1寸5分	AW・J-313-1 駒隅巴瓦(一文字用)2寸	AW・J-313-2 駒隅巴瓦(一文字用)2寸5分	AW・J-320 棟込瓦菊	AW・J-321 棟込瓦連結菊(3個)
18	AW・J-325-6 棟込瓦水板(装飾彫刻物)(亀)(別注)	AW・J-330 巴蓋(おわん)	AW・J-301-1 巴蓋(立浪)	AW・J-330-2 巴蓋(牡丹)	AW・J-330-3 巴蓋(菊)	AW・J-330-4 巴蓋(鳩)	AW・J-330-5 巴蓋(唐獅子)	AW・J-330-7 巴蓋(桃)	AW・J-330-8 巴蓋(鯉)
19	AW・H-4-1 本葺用5分敷平切隅(左)	AW・H-4-2 本葺用5分平剣高(模榑入)唐草軒瓦	AW・H-4-3 本葺用5分平鎌(無地)剣高軒瓦	AW・H-5 本葺用5分平唐草(模榑入)掛瓦(巻の平)(右)	AW・H-6 本葺用5分平鎌(無地)掛瓦(巻の平)(右)	AW・H-6-1 本葺用5分平唐草(模榑入)剣高掛瓦(巻の平)(左)	AW・H-6-2 本葺用5分平鎌(無地)剣高掛瓦(巻の平)(左)	AW・H-7 本葺用5分二の平瓦(右)	AW・H-7-1 本葺用5分二の平瓦(面戸付)(右左兼用)
20	AW・H-12 本葺用5分素丸瓦(本葺用)(7寸)	AW・H-12-1 本葺用5分素丸瓦(本葺用)(8寸)	AW・H-12-2 本葺用5分印籠(玉口)付紐丸(働き長さ7寸)	AW・H-13 本葺用5分軒巴瓦(つつ入り)(尺)	AW・H-14 本葺用5分掛巴瓦(つつ入り)(尺2寸)	AW・H-15 本葺用5分坪み巴瓦(つつ入り)	AW・H-16 本葺用5分隅巴瓦(つつ入り)	AW・H-17-1 本葺用5分袖丸瓦(働き長さ7寸×垂れ3寸)(右)	AW・H-17-1 本葺用5分袖丸瓦(働き長さ7寸×垂れ3寸)(左)
21	AW・H-23 本葺用5分隅面戸瓦(右)	AW・H-24 本葺用瓦(フスマ)瓦	AW・H-25 本葺用鳥倉(フスマ)瓦	AW・H-25-1 本葺用鳥倉(付け丸用)	AW・H-25-2 本葺用鳥倉(亀伏間用)	AW・H-25-4 本葺用鳥倉(雁振用)	AW・H-25-5 本葺用鳥倉(紐付雁振用)	AW・H-25-6-1 本葺用鳥倉(素丸用)	AW・H-25-6-2 本葺用鳥倉(素丸用)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
22	AW・H-25-7 本葺用鳥袋 (素丸用)・(石持)	AW・H-90 (K) 9寸尺平瓦	AW・H-90-6 9寸尺軒巴(長さ尺2寸 径5寸5分)	AW・J-720 (K) 72判棧瓦	AW・J-800 (M) 80枚物判棧瓦	AW・J-1000 (M) 100枚物判棧瓦	AW・CS-10 S瓦	AW・CS-10-1 S瓦半瓦	AW・CS-10-2 S瓦袖瓦(右)
23	AW・M-10-2 尺2角棧切落目板 ハフ(左)	AW・M-10-3 尺2角棧切落目板 入り隅(組)	AW・M-10-4 尺2角棧切落目板 出隅(組)	AW・M-11 尺2角棧垂付目板	AW・M-11-1 尺2角棧垂付目板両棧	AW・M-11-2 尺2角棧垂付目板 ハフ(右)	AW・M-11-2 尺2角棧垂付目板 ハフ(左)	AW・M-11-3 尺2角棧垂付目板 入り隅(組)	AW・M-11-4 尺2角棧垂付目板 出隅(組)
24	AW・M-13-4 尺5角棧垂付目板 出隅(組)	AW・M-14 尺2丸棧切落目板	AW・M-14-1 尺2丸棧切落目板両棧	AW・M-14-2 尺2丸棧切落目板 ハフ(右)	AW・M-14-2 尺2丸棧切落目板 ハフ(左)	AW・M-14-3 尺2丸棧切落目板 入り隅(組)	AW・M-14-4 尺2丸棧切落目板 出隅(組)	AW・M-15 尺2丸棧垂付目板	AW・M-15-1 尺2丸棧垂付目板両棧
25	AW・M-17 尺丸棧垂付目板	AW・M-17-2 尺丸棧垂付目板 ハフ(右)	AW・M-17-2 尺丸棧垂付目板 ハフ(左)	AW・M-18 尺3角棧垂付目板	AW・M-18-2 尺3角棧垂付目板 ハフ(右)	AW・M-18-2 尺3角棧垂付目板 ハフ(左)	AW・M-18-3 尺3角棧垂付目板 入り隅(組)	AW・M-18-4 尺3角棧垂付目板 出隅(組)	AW・T-270 敷瓦270角
26	AW・J-1004 覆輪(丸張)雲付隅鬼 3寸~8寸	AW・J-1005 覆輪(丸張)雲付丸柄振鬼 (東)5寸~9寸	AW・J-1041 覆輪(角張)雲付跨鬼 3寸~9寸	AW・J-1042 覆輪(角張)雲付丸立鬼 4寸~9寸	AW・J-1042 覆輪(角張)雲付丸立鬼 三つ切9寸~尺2寸	AW・J-1043 覆輪(角張)雲付降り鬼 4寸~尺	AW・J-1044 覆輪(角張)雲付隅鬼 4寸~8寸	AW・J-1045 覆輪(角張)雲付柄振鬼 (東)4寸~8寸	AW・J-1082 鬘付雲付丸立鬼 5寸~8寸
27	AW・J-1403 立浪降り鬼4寸~9寸	AW・J-1404 立浪隅鬼4寸~9寸	AW・1501 海津(カイズ)跨鬼 (丸立兼用)3寸~尺1寸	AW・1503 海津(カイズ)降り鬼 3寸~8寸	AW・1504 海津(カイズ)隅鬼 5寸~6寸	AW・1505 海津(カイズ)柄振鬼(東) 5寸~8寸	AW・J-1511 京海津(京風カイズ)跨鬼 (丸立兼用)3寸~尺	AW・J-1513 京海津(京風カイズ) 降り鬼4寸~8寸	AW・J-1515 京海津(京風カイズ) 柄振鬼(東)6寸~8寸
28	AW・J-4002 鬼面丸立雲吹流し鬼 (別注)	AW・J-4003 鬼面降り鬼(別注)	AW・J-5002 御所丸立鬼(別注)	AW・J-5002 御所丸立鬼三つ切 (別注)	AW・J-5003 御所降り鬼(別注)	AW・J-6001 経の巻万十跨鬼 (丸立鬼)(別注)	AW・J-6003 経の巻万十降り鬼 (別注)	AW・J-6007 経の巻万十二の鬼 (別注)	AW・J-6008 経の巻万十唐破風鬼 (別注)
29	AW・JO-9-1 帆立て(中)付丸用 (別注)	AW・JO-9-2 帆立て(中)6寸 紐丸用(別注)	AW・JO-10 飾り付棟鬼瓦露盤 (尺~4尺)(別注)	AW・JO-11 飾り付棟鬼瓦立物 (トナリ)(6寸~尺)(別注)	AW・JO-12 鐘龜(別注)	AW・JO-13 家紋(別注)	AW・JO-14 棟用鬼台(5~尺2寸)	AW・JO-15 降り鬼用台(5~8寸)	AW・JO-16 隅鬼用台(5~7寸)

	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
22	AW・CS-10-2 S瓦袖瓦(左)	AW・CS-10-3 S小丸瓦	AW・CS-10-4 Sトンビ	AW・CS-10-5 急勾配トンビ	AW・CS-10-8 Sの雪止め瓦	AW・CS-10-10 S棟戸瓦	AW・M-10 尺2角棧切落目板	AW・M-10-1 尺2角棧切落目板両棧	AW・M-10-2 尺2角棧切落目板 ハフ(右)
23	AW・M-12 尺5角棧切落目板	AW・M-12-1 尺5角棧切落目板両棧	AW・M-12-2 尺5角棧切落目板 ハフ(右)	AW・M-12-2 尺5角棧切落目板 ハフ(左)	AW・M-13 尺5角棧垂付目板	AW・M-13-1 尺5角棧垂付目板両棧	AW・M-13-2 尺5角棧垂付目板 ハフ(右)	AW・M-13-2 尺5角棧垂付目板 ハフ(左)	AW・M-13-3 尺5角棧垂付目板 入り隅(組)
24	AW・M-15-2 尺2丸棧垂付目板 ハフ(右)	AW・M-15-2 尺2丸棧垂付目板 ハフ(左)	AW・M-15-3 尺2丸棧垂付目板 入り隅(組)	AW・M-15-4 尺2丸棧垂付目板 出隅(組)	AW・M-16 尺2角棧垂付石持 万十目板	AW・M-16-2 尺2角棧垂付石持 万十目板ハフ(右)	AW・M-16-2 尺2角棧垂付石持 万十目板ハフ(左)	AW・M-16-3 尺2角棧垂付石持 万十目板入り隅(組)	AW・M-16-4 尺2角棧垂付石持 万十目板出隅(組)
25	AW・T-270-1 敷瓦270二分の一角	AW・T-270-2 敷瓦270三角半分	AW・T-270-3 敷瓦270三角四分の一	AW・T-270-4 敷瓦270段鼻	AW・TN-270 270なまこ壁用板瓦 (穴あけ・筋入り)	AW・TN-270-5 270なまこ壁用コーナ (長さ382)	AW・J-1002 覆輪(丸張)雲付丸立鬼 2寸~9寸	AW・J-1002 覆輪(丸張)雲付丸立鬼 三つ切8寸~尺2寸	AW・J-1003 覆輪(丸張)雲付降り鬼 3寸~9寸
26	AW・J-1082 鬘付雲付丸立鬼 三つ切り9寸~尺1寸	AW・J-1083 鬘付雲付降り鬼 5寸~8寸	AW・J-1201 影盛台付跨鬼 4寸~7寸	AW・J-1201 影盛台付跨鬼三つ切り 7寸~9寸	AW・J-1203 影盛台付降り鬼 (隅鬼兼)4寸~8寸	AW・J-1271 新影盛台付跨鬼 4寸~6寸	AW・J-1273 新影盛台付降り鬼 (隅鬼兼)4寸~7寸	AW・J-1402 立浪丸立鬼4寸~7寸	AW・J-1402 立浪丸立鬼三つ切り 8寸~尺1寸
27	AW・J-1521 旭海津(カイズ)跨鬼 (丸立兼用)3寸~9寸	AW・J-1523 旭海津(カイズ) 降り鬼3寸~9寸	AW・J-1524 旭海津(カイズ) 隅鬼5寸~6寸	AW・J-1525 旭海津(カイズ)柄振鬼 (東)5寸~8寸	AW・J-2001 数珠掛跨鬼(丸立兼用) 4寸~9寸	AW・J-2003 数珠掛降り鬼 (隅鬼兼)4寸~8寸	AW・J-2005 数珠掛柄振鬼(東) 5寸~8寸	AW・J-3002 古代鬼面丸立鬼 (別注)	AW・J-3003 古代鬼面降り鬼 (別注)
28	AW・JO-1 飾り付棟鬼瓦 松に鷹跨鬼(別注)	AW・JO-2 飾り付棟鬼瓦 恵比須跨鬼(別注)	AW・JO-3 飾り付棟鬼瓦 松に鶴跨鬼(別注)	AW・JO-4 飾り付棟鬼瓦 虎跨鬼(別注)	AW・JO-5 飾り付棟鬼瓦 竜跨鬼(別注)	AW・JO-6 飾り付棟鬼瓦 鶴亀付荷水鬘付影盛台付 跨鬼(別注)	AW・JO-7 鯨(尺~3尺)(別注)	AW・JO-8 鵜尾(別注)	AW・JO-9 帆立て(中)紐付 雁振用(別注)
29	AW・JO-17 柄振り台(6~8寸)								



特別養護老人ホーム あわじ荘

会社概要

創 立	1963年(昭和38年)11月
資 本 金	4,950万円
代 表 者	代表取締役社長 道上 裕二
営 業 種 目	いぶし瓦製造販売 各種陶器瓦販売
生 産 品 目	いぶし和瓦、平板瓦
生 産 能 力	いぶし和瓦 160万枚 いぶし平板瓦 40万枚
従 業 員 数	30名

生産設備 最新鋭コンピュータシステム

トンネルキルン(日本ガイシ製)	
平板瓦	8行1段 1基
和 型	8行1段 1基
和 型	10行1段 1基
コンピュータシステム	
単独窯	(2,000枚) 1基
平乾燥設備	和型棧瓦 2基 平板瓦 1基 のし瓦 1基 役物瓦 1基
取引銀行	淡路信用金庫 湊支店 商工中金 神戸支店 三井住友銀行 洲本支店



全工場 日本産業規格適合性認証